



第9章

北朝鮮の対外経済政策の歴史的変遷 ——デリスキング時代の生存戦略

北九州市立大学 准教授

柳 学洙

【ポイント】

- 北朝鮮は可能なかぎり外部に依存せず自給自足が可能な経済開発を追求してきたが、対外経済関係の構築なしに高度な工業社会を維持することは不可能。
- そのことは北朝鮮指導部も認識しており、冷戦期も冷戦後も、国際環境の変化に合わせて対外経済関係を構築する努力を続けてきた。
- 国際制裁によって北朝鮮の対外経済関係は圧迫を受けているが、米国主導の国際秩序に同意する国ばかりではない。ロシア・ウクライナ戦争が促した朝口の接近など、北朝鮮にとって有利な国際環境が形成される動きもあり、北朝鮮指導部もその機会を積極的に捉えようとしていることに注意すべきである。



注目データ

北朝鮮の対外経済関連の法律・法規

名称	採択日	概要
合営法	1992年9月8日	合営を通じて世界各国との経済技術協力と交流を拡大・発展させることに貢献する
外国人投資法	1992年10月5日	北朝鮮に対する外国投資家の投資を奨励し、彼らの合法的権利と利益を保護することに貢献する
外国人企業法	1992年10月5日	外国人企業の創設と運営を通じて世界各国との経済協力と交流を拡大発展させることに貢献する
合作法	1992年10月5日	合作を通じて世界各国との経済技術協力と交流を拡大・発展させることに貢献する
貿易法	1997年12月10日	貿易事業における制度と秩序を厳格に立て、対外市場を拡大して貿易収支の均衡を保障し、人民経済を発展させることに貢献する
経済開発区法	2013年5月29日	経済開発区の創設と開発、管理において制度と秩序を正しく立て、対外経済協力と交流を発展させ、国の経済を発展させて人民生活を向上させるのに貢献する

資料：「朝鮮の貿易」掲載内容より筆者作成